



- ・利用者の方の成長を目にはすることは、ご家族の方だけではなく私たち職員もうれしいものです。
- ・成長のために支援が必要な場合もあります。今回は特別支援学校と連携した取り組みについて
- ・ご紹介します。

成長に欠かせないもの一つに、歯磨きがあります。食べるだけではなく、食後に歯磨きをして、歯を健やかに保つことも成長には必要です。

足羽学園の利用者の方の中には、歯磨きが苦手で歯ブラシをくわえるだけの方や、すぐに終わろうとして丁寧に磨けない方がいます。しかし、何度も繰り返し練習していくことで、少しづつきるようになっています。

今回取り上げるのは、現在中学部3年生の川越信一さんです。歯ブラシを動かすことはできるものの、適当に終わらせてしまうので、職員が付き添つて歯磨きをしています。



そこで、個別支援計画に基づいた支援を行う中で『全体を10カウントずつ丁寧に磨ける』よう、自分でカウントしながら磨いていました。しかしある程度磨けてはいるものの、どこを磨いているのか意識ができていないようでした。そこで、本人に意識をしていただけるよう、またどれだけ磨けばよいかわかるよう、視覚情報を用いるようにしました。

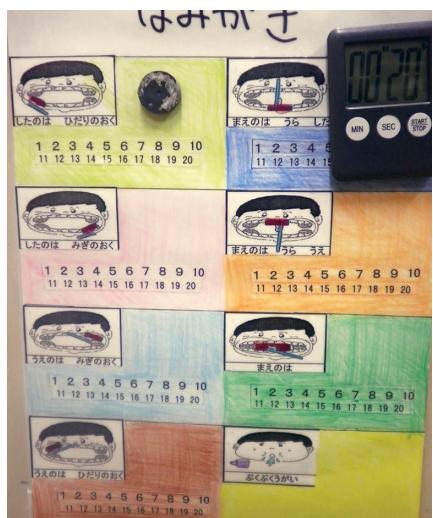


場所と時間が示されています

何とかできなか。学校ではどのように支援をしているのだろうかとの思いから、特別支援学校との連絡会で支援方法について伺いました。すると、足羽学園で使用していたものとは違う視覚情報、デジタルのタイマー、マグネットを使用しているということを知りました。

	①	②	①、②の状況
17	○	○	
18	△	△	集中できず…。
19	△	○	①集中しておらず。
20	△	○	①集中してない。 ②上手にまとめていた!!
21	△	△	①集中していない
22			

①が歯磨き、②は洗面について



新しい視覚情報！

ので、自らタイマーのセットをして、磨く位置が示されているイラストのところにマグネットを動かし、歯磨きを始めたのです。私たち職員が最初に驚いたのは、川越さんがタイマーを使えるということでした。足羽学園では、支援の際にあまりタイマーを使っていないので、川越さんが自分で使えるということを知らなかつたからです。

そしてこの方法ではタイマーを使うため、川越さん自身が数を数える必要はない、歯ブラシを動かすことに集中できます。また磨く位置については、マグネットを動かすことでのこを磨くのかを意識しやすいようになつており、これまで使用していくものよりも川越さん

なせなら磨いている途中で口を閉じて歯ブラシを吸つていたり、タイマーの秒数が気になり磨くことに集中できていなかつたりしているからです。

すると今度は数を数えることに意識が向いてしまい、歯ブラシを動かすことに集中できていない様子が見られました。そして記録用紙の備考欄にもそのことが記載されることが多いです。



自らタイマーを使っていきます

この方法を取り入れたからといって、川越さんが歯磨きを丁寧にできるようになつたとは言い切れません。

ですね

なります。それらが合わさることで、利用者の方の成長につながるということを信じ、これからも個々の段階に沿つた支援をしていきたいと思います。

できるようになってほしいですね。

より、利用者の方の新たな発見や成長につながるということを実感しました。そして、職員の統一した支援はもちろんのこと、ときにはご家族へ連絡する場面など、

ていたり、タイマーの秒数が  
気になり磨くことに集中で  
きていたりしているか  
らです。

しかし今回のことでの関係  
分の歯のままでいてほしい  
です。義歯でも食事はでき  
るけれど、自分の歯で食べ  
る方がきっと、おいしく感  
じるだろうと思うので。

この方法を取り入れたからといって、歯科医に行くと磨き方の指導をされることがあります。丁寧に磨くことは簡単なことではないですね。

口を開けて歯ブラシを及ぼすなつたとは言い切れません。なぜなら、磨いている途中でなつたとは言えません。

【川越さん母より】

私たちでも、しつかり歯磨きができるていると思つて